



天 界 新 知 識

新知識各項に附けた番號は便宜上のもので分類に關係はない、各人の分類整理に應用されたい。

559 伊國立ロママ天文臺で緯度變化觀測

伊國ロマ市カムビドリオ丘の國立天文臺で1920年來、小型のバムベルヒ子午儀により緯度の觀測を行つてゐる。方法はホレボI・タルコト法で、星はボスの P. G. C. 目錄から27對を採つてゐる。[Campidoglio Contributi 53 (1935)] 最近年の一例として $\varphi(1931.30) = +41^{\circ}53'33''.39 \pm 0''.041 \dots \dots$ 従つて、 $\varphi_0 = +41^{\circ}53'33''.46$

560 緯度變化の中央局

1922年以來、岩手縣水澤にあつた緯度變化中央局は愈々昨夏パリ會議の決議により去る1936年1月6日より伊國ナポリ天文臺(臺長兼局長 Luigi Carnera 氏)に移つた。

561 連星「ヘルクレス座99番星」の軌道

ヘルクレスの99番星は A. Clark 15又は β GC 8372 といふ有名な二重星で、6等星と10等星より成り、光度の差が大きいことと、軌道の離心率が大きいため、今まで多くの人が軌道計算を試みたに拘らず、餘り良結果は得られない有様であつた。豫報と計算とが一致しないため Makemson 氏は此の星系に第3天體が攝動作用をしてゐるためとも言つたことがある。近頃米國ミネソタ大學天文臺の W. J. Luyten 氏と E. G. Ebbighausen 氏とは 1859—1835 年間の觀測から軌道の改算をした。即ち、他と列べると下の如し。

計 算 者	Aitken	Doberck	Lohse	Makemson	Luyten 等
計 算 年 度	1900年	1903年	1908年	1929年	1935年
週 期 P	63.0年	64.52	53.51	56.0	54.7
近星點通過 T	1887.0	1884.0	1887.84	1887.69	1887.50
長 半 徑 a	1.00	1.28	1.11	1.03	1.13
離 心 率 e	0.76	0.811	0.763	0.787	0.80
近星點引數 ω	11.3	120.1	93.7	71.61	72.6
傾 斜 角 i	± 24.7	± 53.0	± 38.3	± 34.20	-43.8
昇交點位置角 Ω	154.7	28.5	75.0	97.46	99.9

序でに、視差は $0''.053$ 、質量は $m_1=2.4$ 、 $m_2=0.8$ である。[AJ. 1041]

562 米國博物館協會年次大會とプラネタリウム

米國博物館協會 (The American Association of Museums) の本年度の年次大會は、去る5月11日から13日まで紐約市で行はれたが、プラネタリウム關係の事項は次の通りであつた。

講演 プラネタリウムの實演¹ フィラデルフィア市フランクリン學院のフェル
ス プラネタリウムの主任 James Stolkey 氏。

Hayden Planetarium の特別實演、米國博物學博物館 (American Museum of Natural History) に於て、ツアイス映寫器の供覽及天文部主任 Clyde Fisher 氏の講演。

(Museum News May 1936)

因に Hayden Planetarium は、昨年10月3日から公開したもので、銅葺の鐵骨コンクリート二階建、圓天井は、直徑 23m、高さ 14m ある。ツアイス器が Charles Hayden 氏から寄附されたので同氏の名を冠する事になつた。毎日2回、毎回學校兒童750名づつに講義をする外、入場者に對して毎日6回天文擔當者が講義をして居る。(池田)

花 山 第 5 觀 測 隊 の 消 息

黒い太陽を觀測すべく、はるばるシベリアに赴いた臺長山本博士以下稻葉、濱田氏よりなる花山第5觀測隊の一行は6月12日無事目的地オムスクに到着。直ちにソヴェイトのプルコヴォ日食觀測隊の觀測陣に隣接する地點に用意せられたバラツクに入り、17日諸準備完成の由。

花 山 第 4 觀 測 隊 の 消 息

北滿の果呼瑪に遠征の公文、高倉氏等よりなる花山第4觀測隊の一行は5月31日目的地に到着。續いて上海自然科學研究所長新城新藏博士の一行、滿洲國中央觀象臺の神田學士の一行を加へて、俄然呼瑪の日本人は5倍に激増し、觀測小屋の屋上に翻へる日章旗は科學日本の意氣と誇りを、滿ソ國境線呼瑪原頭に輝かせ、皆既日食を目前にいやが上にも緊張を加へて居る。